



千葉動力車

勝浦支部定期大会成功かたる

新執行体制確立 一丸となって業務移管阻止へ

勝浦支部は一月二三日、第一四回支部定期大会を開催し、清算事業団闘争・強制配転者の原職奪還を中心に闘った一年間の闘いを総括するとともに、仕業移管を含めた九一・三ダイ改攻撃に対してストライキを含む闘いに総力を挙げて決起する方針を確認した。

大会は本部から中野委員長、田中書記長を迎えて、支部組合員四〇余名が結集し、議長に太田昭作氏を選出して進められた。冒頭、支部執行委員会を代表して江沢支部長は、一年間の組合員の奮闘を感謝しつつ、元支部副支部長の中村俊六郎氏を含めて事業団労働者に対し、紙切れ一枚で二度の首切りを行った非道な政府・事業団当局のやり方をきびしく弾劾するとともに、「我々の闘いが清算事業団問題を社会的にクローズアップさせ、国労の脱落を許さなかった」と勤労千葉のこの間の闘いの意義を強調した。

そして、事業団の中村氏をはじめ四〇名におよ



支部長	佐藤敬一
副支部長	長谷川勇
書記長	久我正道
執行委員	渡辺照信
	庄司暁男
	奈良輪孝
	佐藤勝巳
	白鳥茂
	他、営業より二名
会計監査員	出水敏夫
	鈴木忍

①支部役員の見直し方法について、②いすみ鉄道出

向者の展望について、③九一・三ダイ改線見要員としての助勤問題と以前からの館山助勤者の引上げの展望について、④館山(勝浦間(房総南線)の第三セクター化について、⑤この間の三六協定をめぐる経過と問題点、⑥持株制度について、⑦医適の取扱いについて、⑧病院でかかった時間のみ超勤扱い。通勤時間は含めない⑨京葉線線見の

12・12 清算事業団 中労委闘争に 全力で集まること

政府・運輸省、JR当局は、本年二月二七日千葉県地労委において出された「勤労千葉十二名の組合員を八七年四月一日(分割・民営化強行時)にさかのぼって採用すること」との勝利命令を履行しないばかりか、十二名を清算事業団からも解雇するという不当な攻撃を行った。

そして、中労委においても、すでに二回調査が行われたが、自ら再審査申立請求を申し立てたにもかかわらず、証人すらも立てないという不当な態度に終始している。

われわれは、労働委員会命令を無視し、違法行為を重ねるJRを社会的に暴くものとして闘うと同時に、闘い半ばして逝去された磯辺哲夫組合員の無念を我がものとして、早期救済命令をかちとるために全力で闘わなければならない。今回の中労委闘争は、中野委員長を証人に立てて、この間の国鉄分割・民営化をめぐる不当労働行為、JR―清算事業団による不当労働行為を全面的に暴いていく。また中労委は今回の審問をもって結審し、命令を待つことになる。

このように今回の中労委闘争は、清算事業団原職奪還にむけた重要な取り組みとなるので、全支部からの全力で結集しよう。